



花笠まつり 山形県 (提供：山形県花笠協議会)

編 集 後 記

本年度もまた自然の猛威に翻弄されました。平成27年9月には関東・東北豪雨による鬼怒川の堤防が決壊、決壊場所から遠く離れたところまで浸水被害が広がり、浸水エリア内に多くの方が取り残されるなど、ハザードマップ自体は整備されていましたが、行政区境を越えた避難・広報のあり方の難しさが明らかとなりました。火山噴火も相次ぎ、東北地方を代表する火山「蔵王山」でも、火山活動が活発化しています。

そこで今号の「大地」では、火山の専門家である山形大学の伴 雅雄教授より特別寄稿を頂きました。またトピックスとして、「自然災害との共生と豊穡の大地の物語【栗駒山麓ジオパーク】震災の記憶と経験を未来の子ども達へ」と題して、栗原市ジオパーク推進室の佐藤 英和様よりご紹介いただきました。「現場のプロに聞く」のコーナーでは、地質調査業に携わる者であれば、知らない人はいない(株)神谷製作所さんへインタビューに伺いました。

本年度の広報委員会の活動テーマは、「我々の業界をより多くの人々にもっと良く知ってもらおう」でした。そこで会員各社様の社会貢献活動への取り組みについてアンケート調査をさせていただきました。これらの結果をもとに今後の展開(企画)を模索して行きたいと考えております。御協力頂きました皆様、ありがとうございました。

私どもの業界に関わる話題では、地盤に関わる私どもの信用を失墜させる杭施工データの改ざんといった、不正が明らかとなりました。現場担当者の倫理観の欠落として片付けられない事件で、責任体制の明確化と信頼回復に努めなければいけません。

今年で東日本大震災から5年になりますが、更地のままである場所も多く、あらためて大きな災害であったと感じております。盛土造成の完成や各所での復興町開きのニュースを耳にするなど復興が進んでいることを実感するところもありますが、まだまだ復興半ばであります。皆が一日も早く元気を取り戻せるようこれからも復興に携わっていきたいと思います。

最後になりますが、ご多忙の中執筆頂きました皆様に心から御礼申し上げます。

(広報委員会 内海 実)

協会誌『大地』発行・編集

『大地』56号 平成28年3月10日発行

一般社団法人 全国地質調査業協会連合会

東北地質調査業協会 広報委員会

編集責任者 熊谷 茂一 真坂 康晴

昆 孝広 庄子夕里絵

内海 実 野田 牧人

橋本 岳社 菅原 大輔

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4丁目1番8号

(パルシティ仙台 1階)

TEL 022-299-9470 FAX 022-298-6260

e-mail:tohoku-geo@nifty.ne.jp

http://www.tohoku-geo.ne.jp

印 刷 ハリウコミュニケーションズ(株)

TEL 022-288-5011 FAX 022-288-7600